

「猫にマタタビ」ということわざもあるように、マタタビは猫の大好物です。マタタビはマタタビ科のツル性植物で、山地に自生しています。マタタビの実を乾燥させたものは昔から秘薬として重宝され、疲れ切った旅人が、マタタビの実を食べて生氣を取り戻したことから「また旅＝マタタビ」と呼ばれるようになったそうです。現在も漢方薬として冷え症や利尿、神経痛などに効用を示します。

猫が反応するのはマタタビに含まれる「マタタビラクトン」という揮発性の成分です。猫には、鼻腔と上顎うわあごの間に第2の嗅覚器官である「ヤコブソン器官」という特殊な

あんしんペットライフ
88

猫とマタタビの不思議な関係

器官があり、主としてフェロモンセンサーの役目をしています。

ヤコブソン器官がマタタビの成分に反応し信号を脳へ伝え、運動中枢や反射機能を鈍らせてしまいます。そのため、猫はマタタビを前にすると、よだれを垂らして体を床にこすりつけたり、転げ回ったりと、さまざまな反応を示すのです。

まさに猫にとってマタタビは媚薬そのもの。生活の中で上手に使うと、爪とぎ場所のしつけや食欲増進、ストレス軽減などに有効とされています。

す。しかし、量が多いと体調を崩す可能性があるため、興奮しすぎないように様子を見ながら少量ずつ与えましょう。

ネコ科の動物であるライオンやヒョウ、トラなども同様の反応を起こします。野生の環境下で不利となりうる特性ですが、進化の過程で淘汰とうたされずに残りました。もしかしたら、ネコ科動物が長い年月を生き抜いてきた秘密が、マタタビとの不思議な関係に隠されているのかもしれませんが。

(アニコム損保
獣医師 高濱美穂)